

リーフレット（小学校中高学年用）を活用した授業展開例

※このリーフレットは、学校での自転車交通安全教育で活用していただくとともに、児童が家庭に持ち帰り、保護者とともにチェックシート等で、保険加入、自転車点検、自転車安全運転等の確認をしていただき、学校と家庭が連携した自転車交通安全教育を継続的に行っていただくことを目的として作成したものです。

授業展開例を参考に、各学校、学年の実態に合わせて、リーフレットを活用していただくようお願いいたします。

- 1 対象学年 3～6年生
- 2 教科・領域 学級活動 等
- 3 題材名 「おぼえよう！自転車のルール」～事故にあわない、おこさない～
- 4 題材の目標
 - 自転車乗車中の危険について予測し、どうすれば危険を回避できるか考える。
 - 自転車での事故がどんな状況で発生しているか理解し、交通安全への意識を高める。
 - 「ちばサイクルール」について理解する。
 - 事故にあわない、おこさないためにどうしたらよいか考える。

5 学習展開

時配	主な学習活動	指導上の留意点	資料
導入 (7分)	1 自転車の乗り方について、絵を見ながら話し合う。 ・正しい乗り方はどれか。 ・危険な乗り方はどれか。 ・自分の普段の乗り方はどうか。	・正しい乗り方の絵を見つけるだけでなく、危険な乗り方の絵については、改善方法を考えさせる。 ・自分の自転車の乗り方を振り返らせる。 ※それぞれの正しい乗り方の確認は、授業の後半に行えばよい。	リーフレット マークシート例
	①×細い路地からの飛び出し→・停止線で一度止まって左右を確認する。 ②×傘差し運転（ヘルメットなし）→・雨の時は合羽を着用する。（ヘルメット着用） ③×並進走行→一列で走行する。 ④×スマートフォン等を使用しながらの運転→・スマートフォン等の使用をやめる。 ⑤×車道の右側走行→・車道の左側を走る。 ・自転車通行可の歩道（車道寄り）を走る。（左右どちら側でも可） ⑥○自転車横断帯を走行している。 ⑦×横断歩道で歩行者とぶつかりそうになっている。 →・自転車横断帯がある時には必ず横断帯を通行する。 ・横断歩道しかない場合は、歩行者がいるときには自転車から降り、押して渡る。 ⑧○自転車通行可の歩道を通行している。（歩道の車道寄りを走行） ⑨×二人乗り→・二人乗りはしない。 ⑩×ヘッドホン等を使用しながらの運転（ヘルメットなし） →・ヘッドホン等の使用をやめる。（ヘルメット着用） ⑪×飲酒運転→・お酒を飲んだら自転車には乗らない。（車両の仲間） ⑫×歩道への飛び出し→・歩道や車道に出るときは、必ず止まって左右を確認する。 （歩行者優先） ⑬○車道左側走行→・自転車通行可の歩道は、歩道（車道寄り）を走行してもよい。 ・小学生は、歩道を走行してもよい。（いつでも止まれる速さで） ⑭×歩行者にぶつかりそう→・歩道の車道寄りを徐行する。（歩行者優先） ・危険なときは、止まるか、自転車を降りて押していく。		
	2 本時のめあてを確認する。	自転車での事故にあわない、事故をおこさないためには、 どうしたらよいだろうか。	
展開 (3分)	3 歩道での自転車走行時、交差点横断時にどんな危険があるのかを考え、話し合う。 [歩道の自転車] ○ 駐車場から車がバックして、歩道に出てくる。スピードを出しているので止まらない。車道の方によけると走行してくる車にぶつかるかもしれない。 →歩道を徐行していれば、すぐに止まれる。 ○ 歩行者にぶつかって、ケガをさせてしまう。自転車の人もよけようとして、車道に出ると停車中の車にぶつかってしまう。 →歩行者がたくさんいるときは、自転車から降りて押していく。 [交差点] ○ トラックの運転手が、自転車に気づいていないのでひかれてしまう。（死角、左折巻き込み） →信号が青でも、一度止まって車が曲がってこないかよく確かめてから渡る。（止まる・見る・待つ） →運転手さんと目を合わせて、自分に気づいていることを確認してから渡る。（アイコンタクト） ○ お互いに相手が見えていないので、出会い頭にぶつかってしまう。 →交差点では、必ず一度止まって左右の安全を確認してから渡る。（止まる・見る・待つ）	・危険の予測だけではなく、どうしたら危険を回避できるかについても意見を出させる。	リーフレット

